

〔萬葉集十九〕閏三月、○天平勝於衛門督大伴古慈悲宿禰家餞之入唐副使同胡麿宿禰等歌二首。

韓國爾、由伎多良波之氏、可敵里許牟麻須良多家乎爾美伎多氏麻都流、

〔倭名類聚抄二男女〕士 白虎通云、男謂之士、音與仕同、一本作仕四、

〔箋注倭名類聚抄男女〕所引文原書無載、按毛詩正義、士者男子之大號、卽此義、說文、士事也、數始於一、終於十、从一、十、孔子曰、推十合一爲士、轉注、凡事其事者稱士、白虎通、士者事也、任事之稱也、故傳曰、通古今、辨然不謂之士、下總本音四作音子、按士屬牀母、子屬精母、雖清濁不同、然並在上聲六止、四屬心母、在去聲六至、音韻皆異、作子似勝、廣本作音與仕同、與廣韻合、

〔日本釋名中品〕彥 ひはほめたることば也、日は陽精なり、わが國にてもはらたふとぶ事なり、これは男子也、男子をほめて彦と云、ひいでたる子也、字書にも彦は美士也といへり、

〔古事記傳十五〕日子、凡て男に比古、女に比賣と云は、美稱にて、略註比とは凡て物の靈異なるを云、

〔倭訓采前編三〕いらつこ、日本紀に郎子をよめり、色つ子の義、色はわかき意、つは助語成べし、

〔東雅人倫〕人ヒト○中 男をワケといふ、陰陽二神生み給ひし所の、石土昆古神、石巣比賣神、大戸日別神など、舊事紀に見えし是也、古事記に別讀で、和氣といふと註せり、又男を麻良といふ、舊事紀に、物部造等祖天津麻良、笠縫等祖天都赤麻良など見えし是也、麻良舊訓は字の如し、後に讀て麻呂といふなり、マメといふ詞が如くに、太古朴陋の俗に出し詞なれば、終に男子の通稱となりし事、子兒等の字讀てコリ、

〔類聚名義抄二〕女擎舉反○チムナ

〔段注說文解字十二〕下婦人也、男丈夫也、女婦人也、立文相對、喪服經每以丈夫婦人連和ニヨ

〔伊呂波字類抄遠〕女チムナ

〔書言字考節用集四〕人倫○チムナ

○女性○女體云

○女子○女シ○女○女郎